

「加茂の活性化策」次々と

旧南郷老人福祉センター（月崎荘）

旧南郷老人福祉センター（月崎荘）は老朽化により閉鎖されました。この度、市原界が公開で利用を募集したところ、東京に本社を置く（株）シザリックリネットという運送社から応募があり、審議の結果貸付が決定しました。

市の貸付条件は、土地は30年の無償貸付、建物は無償譲渡、残土、産廃、風俗営業は禁止、貸付期間終了後、借地にして返還、2年以内に事業を行うこと、地元貢献について、地域長市と協議することとなっております。

子育て支援活動の普及促進に向け

7月16日（金）市原商工会議所、千葉県立市原高等学校はキャリア教育活動の普及、促進に向けた連携協定を締結する「調印式」を行いました。今回、締結した協定は「地域で活躍する人材の育成に関わる事項」「市原市のまちづくりに関わる事項」「市原市の地域産業振興に関わる事項」といった、連携事項が示されています。

（佐々木里山通信員）

加茂里山通信

令和3年
3月
10日
号

発行 市原商工会議所
加茂里山通信編集部 征矢貫造
編集長

旧南郷老人福祉センター

敷地は約2万5千平米で、不動産価値は50万円、建物延床面積は1千8百平米、価格は9万円弱になっています。そのため、建物は無償で譲渡となり、土地については価値が高くないものの市の所有のため売却はせず、かと言って地代を徴収するほどでもなく、前向きな提案がされています。

事業者の提案、研修及びリクリエーションを行う施設として利用し、観光振興に協力したいとしています。

また、地域貢献については、

- ・地元の里山団体の地域活性化活動への協力
- ・防災備蓄庫を設置し、災害時協力
- ・地域のイベントへの協力

など、前向きな提案がされています。

養老の市の倉庫が移住失業の相談窓口と交流拠点に

養老のコンビニ前の交差点にある、もともと有線電話の基地局、高層タム対策等して使われていて、現在は倉庫になっている古い建物を、これから農業向けの移住相談の窓口と交流拠点として生まれ変わらうとしています。

個人向けの移住相談の窓口が朝原原に今春開設され、それに続く企業向けの施設しようという目算です。コロナ禍でテレワークが進んだことや、密集度の高い都会を離れて、緑が多く、環境を求める企業が増えてきたことをチャンスと考えた施策となります。

子どもたち西川を歩く

土敷谷川、支流の西川は以前にも紹介したように、加茂地区の人々も、また地元富山区の人々も、また足跡を踏み入れたことな

に沢山の賑わいがある貴重場所です。それにこぼれ最後はトンネルを抜けるまで建物等の人物が目に入らないため目を満喫できます。な残ったのはこの日曇っていて陽が差さなかったことと、陽が差すと川の水が輝き木々の緑の調が一変し立ちます。下草刈りをしたりして準備をし、この日も案内してくれたい小宮さん、もっと多くの人にこを知ってもらいたい、お話を聞いてもらいたいと最後に挨拶がありました。

（征矢里山通信員）

加茂学園は今



市原市総合体育大会

7月に市原市総合大会が行われました。加茂学園ではサッカー部、野球部、バスケットボール部、テニス部が大会に出場しました。また個人で卓球の部、陸上の部に出場しました。

子供たちは奮闘の中でも最後まであきらめず全力で頑張りました。健闘を称賛し、下記のとおりです。

- ・野球の部 優秀選手（秋田透羽）
- ・陸上大会 女子共通走り幅跳び 第4位（澤菜緒）
- ・卓球の部 女子個人シングルス 第3位（小原奈々）

また、7月14日（水）に1〜4年生でサマーフェスティバルを開催しました。サマーフェスティバルでは4年生の生徒たちが中心となって企画し、水鉄砲や水風船を使ったウォーターサバイバルゲームとターゲットゲーム（的当て）を行いました。子供たちは「水鉄砲で遊んで楽しかった。夏休みもついでです。」フェスティバルの準備や当日の進行は大変だったけど、みんなが楽しんでくれたよかったです。1年生も1年生がいつか遊んで遊べるフェスティバルをやりたいです。1年生も協力して水鉄砲を楽しみました。びしょ濡れになりながらも笑顔がからから輝く活動となりました。

コロナ禍の中ではありますが、感染防止を徹底したうえで子供たちが充実した活動ができるようにしていきたいと思えます。

市原商工会議所と市原高等学校 連携協定を締結する

また、経営者による講演会を開催し、働くことの魅力や、地域の愛情・仕組みなど、学校教育だけでは習得できない社会教育を実践していきます。

その他にも、教育と経済が相乗効果期待できるものを推進し、地域経済の活性化を図っていきます。

（実倉山通信員）

編集後記

台風が過ぎ去り、日ほかに短くなり、秋は深まりつつあります。緊急事態宣言が全面的に解除され、何か開放感を感じます。ただ、以前の生活に戻すということではなく、それなりの警戒感を持つてこれまでも変わらない感染対策と対応が必要であることはみんながわかっていることです。マスクなしの生活はまず戻りませんが、少し先をいつか来ることを信じ待ちます。

写真を撮るために2度ほど月崎荘に行きました。建物前の植木が生い茂り、周りには草だけ、廃墟のようなイメージですが、かつてここが盛っていたころがありました。国民宿舎「月崎荘」は前の東京オリンピックの5年後、1969年7月に市の施設として開業しました。しかし、それから14年後には閉業しています。閉業した後は市原市南部入館センターとして使われ、市原市南部保健福祉センターの開設とともに廃止されました。その後、アートシクスの時の菜の花ブレイズや作家さんの宿舎として利用されましたが、それが廃止されることになりました。ここが再利用され、活かされることを願います。

（征矢里山通信員）

皆様と共に歩む観光

いよいよワカサギ釣り！
高滝湖観光企業組合
TEL 0436-98-1277

房総・養老深谷の地酒お土産は 養老深谷駅前 角屋商店 養老深谷観光協会窓口
市原市朝生原181
TEL 0436-96-1108
FAX 0436-96-0052

愛車のある幸せな暮らしを応援します！
安全・安心
有限会社 全日本ロータスクラブ加盟店
小茶自動車
市原市石神227
TEL 0436-96-0482
FAX 0436-96-1293

前田祐司さん

毎号一人の開業者移住者をとりあげ加茂地区の皆さんに紹介します。

今回の開業者は前田祐司さん。加茂地区で生まれ育ち、家具販売の会社を営んでいる前田祐司さんは、今年に入り東京・石神の「楓」で活動を始めました。

開宅舎小深山(以下Kと示す)・祐司さんは加茂地区で生まれ育ったんですね。高校業のタイミングで加茂地区を出た聞きましたが、どこかのタイミングで「帰って来ようかな」と考えていたんですか？
祐司さん(以下Yと示す)「帰って来ようかな」と全然考えてなかったよ。コロナがきっかけだったね。世の中の流れが変わり始めたんだよね。
K:「そうだったんですね。コロナがきっかけで地方に移住したって人もいますよ。」
Y:「働き方に自由度が増えて、田舎にもチャンスが見えてきたのがあったね。あとは、この地域は七十歳以上の人が多くて、ぼくの親戚の人たちが築いてきたものが多いじゃない、もう何もわかなくなっちゃったから、そこはなんとかしたいなって。」
K:「うんうん。」
Y:「あとは、やっぱり若い人たちの存在が大きかったね。お父さんから話聞いていたから、もう田舎で何か事を起すよとみたいなものを作ってくれてる若い人がいるんだって。そこで「養老渓谷で新しいことを始めてる若い人がいる」とは嬉しいことだよ。早くからですね。営業許可から取って言った

ので、早くてビックリしました。
Y:「7月の1連休から始めるのに、場所の許可がちゃんととれたの1週間くらい前だったかな。たまに失敗しちゃだめって考えている人いるけど、失敗してもいいんだよね。小さい失敗しても繰り返して修正していくのが大事。」
K:「養老渓谷駅前のかき氷屋さん、予想も現実のギャップってな感覚でした？」
Y:「予想以上に良かった。なかなか物事がスムーズに進まなかったんだよね。地域特有のコミュニティというか、でもその地元の人とのコミュニケーションがおもしろい。それ以外だと、観光客に地元の事を紹介できるのが嬉しいんだよね。」

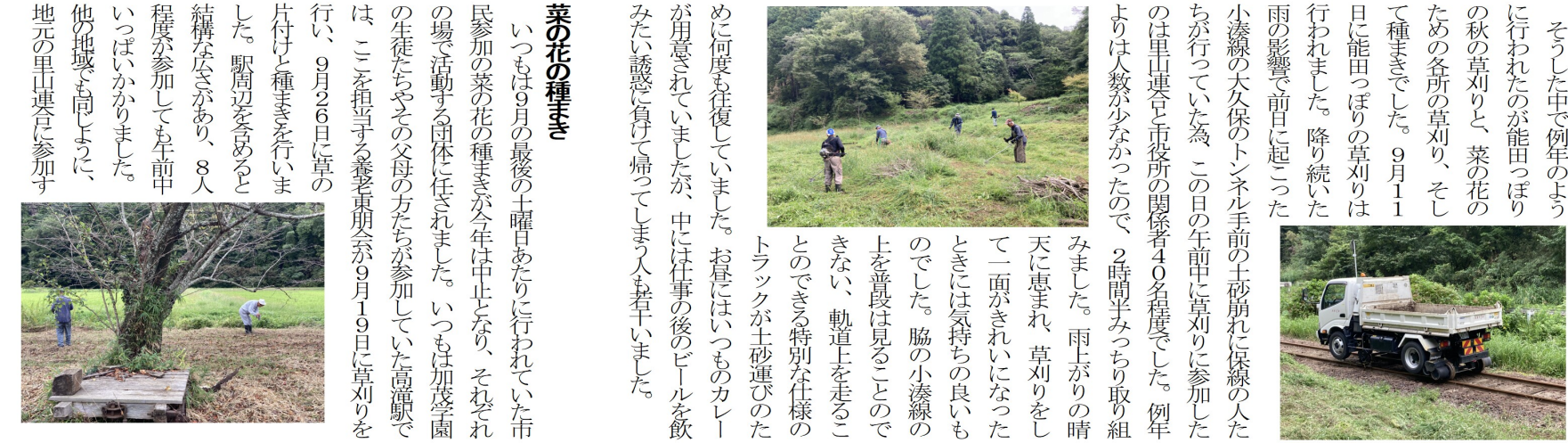


「然氷」の看板の前でインタビュー。祐司さんは「加茂地区がもっと稼げるような地域にしたい。そうすれば、色々な人がもつこの場所でチャレンジしてくれて地域が盛り上がる。そのためには地元の人々の協力が不可欠だから、若い人が何かやりたいってときは協力して欲しいね。失敗してもいいよという広い心で、応援してもらえたら嬉しいな。」
移住して来たばかりでは、わからないことや不慣れなことが多くみなさんに迷惑をかけてしまうこともあるかと思う。だから「加茂地区みんなで移住してくる若者を応援していきたいよ。どこかで見かけたら気軽に声をかけてみてほしいね。」(開宅舎 高橋)

里山からの発信

2023年秋の里山生活イベント中止

昨年と同様、今年も加茂地区における夏から秋の行事はそのほとんどが中止あるいは一部取りやめとなりました。8月の笠踊りの市祭、9月の敬老会、10月の体直祭中止となり、高橋社の秋祭例大祭は神事のみの行われ、神輿などの他の行事は行われないことになりました。例年であればこれらの行事は町会の役員が関わって、1年間の中で、忙しい時期になっていきました。町会役員にとっては気が楽になったと思いが、行事は引き継ぎが大部分分あるので、次の人たちが大変との声もあつた。



そうして中で例年のように行われたのが能田ぼりの秋の草刈りと、菜の花のための各所の草刈り、そして種まきでした。9月1日に能田ぼりの草刈りは行われました。降った雨の影響で前日に起こった小湊線の大雨の土砂崩れに保険の人たちが行っているため、この日の午前中に草刈りに参加したちは行っていない。2時間半みっちり取り組まれました。雨上がりの晴天に恵まれ、草刈りをした一面がきれいになったときには気持ちの良いものでした。脇の小湊線の上を普段は見ることができない、軌道上を走ることのできる特別な仕様のトラックが土砂運びのために何度も往復していました。お昼にはいつものカレーが用意されましたが、中には仕事の後のビールを飲みたいと感じて帰ってしまふ人もいました。

菜の花の種まき

いつもは9月の最後の土曜日あたりに行われていた市民参加の菜の花の種まきが今年も中止となり、それぞれで活動する団体任せになりました。いつもは加茂地区の生徒たちとその父母の方々が参加して、高橋社では「こぼれ種まき」を主催する養老東期会が9月19日に草刈りを行い、9月26日に草の片付けと種まきを行いました。期間を定めると、期間が短くなり、8人程度が参加して午前中いっぱいになりました。他地域も同じように、地元で里山連帯に参加する



「挿花に向け」
9月の前半に毎日のように雨が続き草は伸び放題になり、その後の草刈りが大変でしたが、残雪引き、次第に秋感させる爽やかな日も出ました。「公報」は10月10日、では前号で紹介した「三ツ丸」さんや開宅舎の高橋さん達、そして連載してもらっている地域おこし協会の白鳥さん、ほかに加茂地区の仲間たち、おもしろい人たちの特集のようにもなりました。また1面にあるように旧南郷老人福祉センター1月崎荘や養老にある旧有線基地局の建物の再利用なども始まります。高滝地区でもいろいろな動きがあります。(余談ながら先日高滝地区がテレビに映りました。ドローンで上空から撮影された高滝湖とその周辺は地元にいる者にとっても魅力的に見えました。)いろいろな動きが連動して加茂地区がさらに注目を集め、ここに移り住む人が増えることを期待します。過疎化が進行している加茂地区にあつては、いろいろな人が是非とも必要です。

ある曇

コロナの感染者の減少と緊急事態宣言全面的に解除され、ワクチン接種率の上昇、国産の医薬品の年内にも承認と言われる進展具合など、明るい兆しが見えてきました。これから冬に向けて感染の第6波が懸念されており、断絶は許されたいところですが、ようやくトンネルの先の明かりが見え始めてきた感じがします。先に行われた「パリンピック」の報道の中で、パリンピックの父と言われるクッドマン博士の「正されたものを教える。残っているものを最大限に活かす」という言葉は、パリンピックのみが噴き出しているのではなく、コロナ禍の中にあつて疲弊した多くの者達にとっても叱咤と激励の言葉であると思えました。(栗原山通信員)

栗拾いの思い出

栗拾いの思い出

子供のころ、近頃山栗の木があり、兄弟で収穫しました。落つて口の開いてるものは靴で踏んで中の栗を出します。竹竿高い実を叩いて落としたりもまたが、木の上まで登り栗をサミで下に落とすこともありました。しかし栗の木は虫がつきやすく根元から倒れたことがあります。木の上にはいた私は木にしがみついたまま、スローモーションで地面に着きました。それ以来、栗の木には登らないようにになりました。



そして攻防

「マコモタケ」がインシシに狙われている「マコモタケ」の季節です。しかしマコモタケのおいしさを狙ったインシシは昨年マコモタケを荒らして全滅させたそうです。今年もカブチリとトタンで囲みガードして、ミヨウカの周りもインシシに荒らされて、収穫量激減、畑に植えてある栗はキノコが食われてしまっています。



特定外来生物「キノコ」アマガサハ、アラブマコ、千葉栗でも第1次防除計画を策定したそうですが、いつになるかわかりません。千葉栗のキノコの推定年数は4万1千頭です。町会の畑の付近にも6頭はいます。(大富根 貞山通信員)

夢の続き

夢の続き

「夢は夜ひらく」藤圭子の歌がラジオ流れて流れてきた。年暮りの夢は、いよいよはじまり。辞めて10年以上経過するに仕事は夢をみれば現実だ。たまに夢を親がてくるが、そんな時は朝朝の仏壇に静置する。夜中に夢で目覚めると朝まで眠れないのが常である。15、16、17と私の人生暗かった。17のフレーズは頭から離れない。今は草花が、町を歩くと加茂園の「立志会」の見学に参加する機会があった。子どもたちのキラキラした目の輝きと熱い思いを込めた夢を聴いた時、自分恥ずかしくなったのを覚えている。自分の中学生の頃は頭の中は「色気、食い気、金儲け」だった。それと比べると「今の中学生はすごいなあ」と正直思う



「夢の表現」とか「がんばれば達成は早い」となると、スローガンをよく見ると、夢は見ると、思い描くもので、辛くないか、思い描いたおりの人生を歩んでいく人、にはどうもか、むしろ、夢現のギャンブルに陥るシタバタしているのが正直なところだ。不幸なときは、職場の悩みで自死を選択してしまう若者の多い。早くてビックリしました。

拠点ができました

地域おこし協力隊リポート

みなさんこんにちは、地域おこし協力隊の自転車乗り、白石です。
市原市に拠点を移動してから早や1年が経ちました。先日「広報いちほら」にも掲載いただきましたが、田淵の拠点がある人々を呼べる発問としてなんとか完成いたしました。お店の名前は「OIKAZE (おいかぜ)」としました。これは自転車乗りの立場で言うところ、追い風の場合、向かい風の時と比べて、走っている速度は倍々5km/hくらい早く走ることが出来ます。このお店を拠点としてみんなは走り出してもらえようになりたいと思います。また、自らが盛り上げたいと、南市原地域の地域振興の追い風になりたいという思いも込めました。
内装の細かい点検や改装、外装の整備などはまだ残っており、これから「ペリオン」(建屋改修作業をしながら自転車乗りの地元の人が寄つていただけるような店舗を作りたい)という思いです。



長くなりまたお前の里山通信は、これから仕事として地域で活動していきたいことの再確認と、今までの経験してき働か方は違った「仕事のしかた」に対して感じたことをお話ししたいと思います。
今までは普通の会社員として仕事をしてきたけれど、自営業の飲食店を、自ら仕事を作らなければいけないという難さを少しずつ学んでいます。
田淵に来てからというもの、近所の商店の老農・兼業農家をされる方、その他市原市部でお仕事をされている方、経歴生活についてとても気になっていまして、初めての経験のため、飲食物を出すにしても中心街から離れたところの故の買物の運搬のためのコストや必要な時間、設備のための消耗品など、考えなければいけないことがたくさんあります。
これは飲食店開業から心細く離れてしまつたものの、今は仕事に携わってくださるものだと感じました。南郷で販売、生計を立てていく上での課題の一つが見えました。
さて、ようやく拠点ができ外部からも人があふんぱ訪れできるところになってきました。
市原市外人々への情報発信としては、最近では市原市内の物産展を活用して提供できるメニュー開発、

人と環境が一体となって大切な未来へ
自然環境と人間との調和を目指して

杉田建材株式会社

本社 市原市万田野 26 TEL 0436(96)1311
市原支店 市原市惣社1-1-22 TEL 0436(24)0511
南総支店 市原市牛久450-1 TEL 0436(50)0111
URL http://www.sugita-group.com/